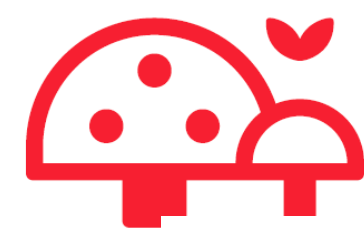


小児科外来におけるマイコプラズマ感染症の 症状、抗菌薬治療と経過

たかのこどもクリニック 高野 智子



たかの発達リハビリクリニック 高野 真



外来マイコプラズマ感染症はおおむね経過良好であるが、11%が抗菌薬変更、6%が病院紹介となっていた。マクロライド耐性例は臨床的には約10-43%と考えた。

はじめに・目的

2024年に8年ぶりのマイコプラズマ感染症の流行を経験した。
マイコプラズマはマクロライド耐性が問題となっており、2012年には80-90%が耐性であったが、2019-20年には耐性率が20-30%まで減少したと報告されている¹⁾。今回流行の外来症例における症状と耐性率を検討する目的でこの検討を行った。

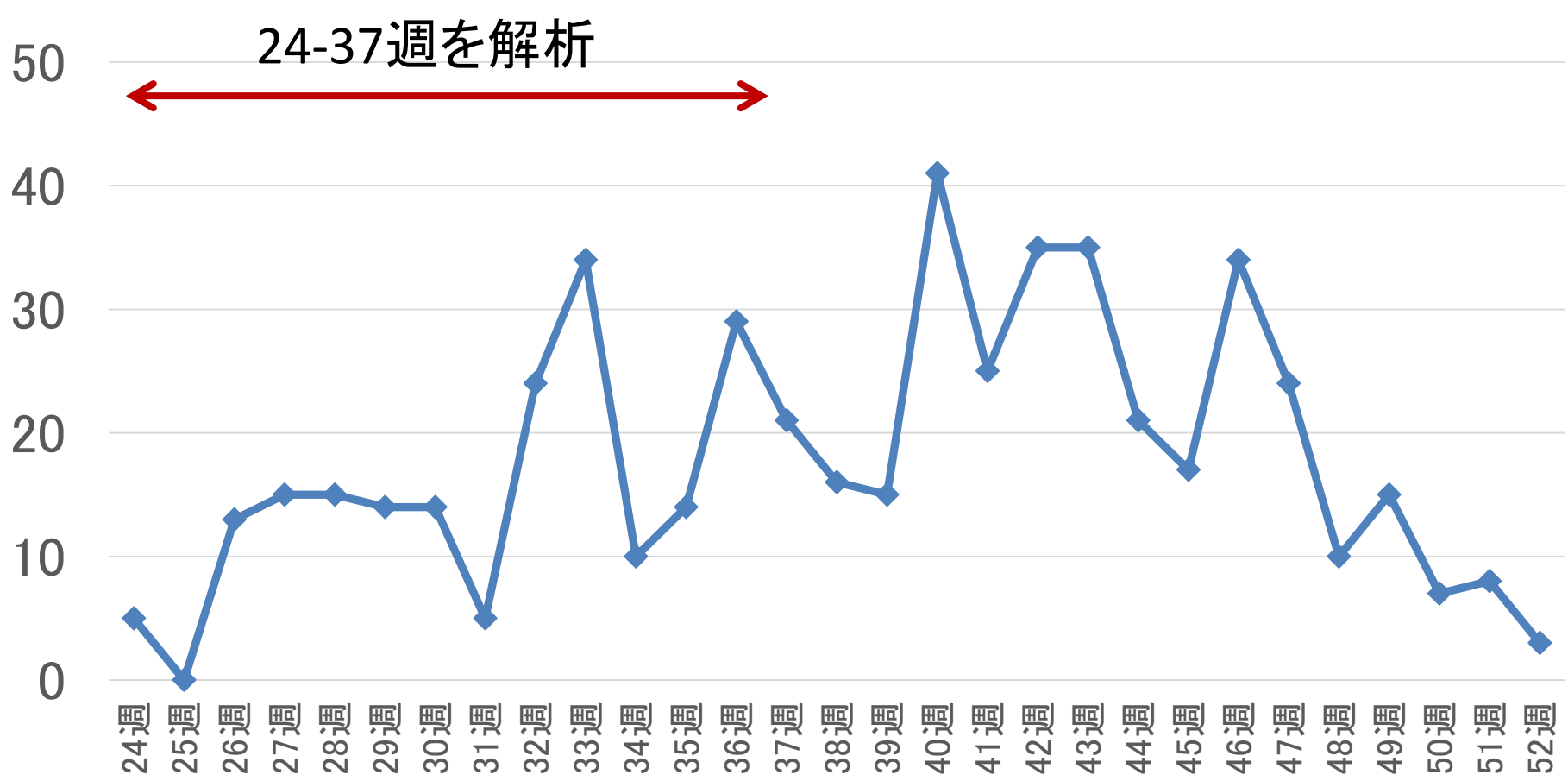
1) マイコプラズマ肺炎の発生状況について; 国立健康危機管理研究機構感染症情報提供サイト
2024年9月19日

方法

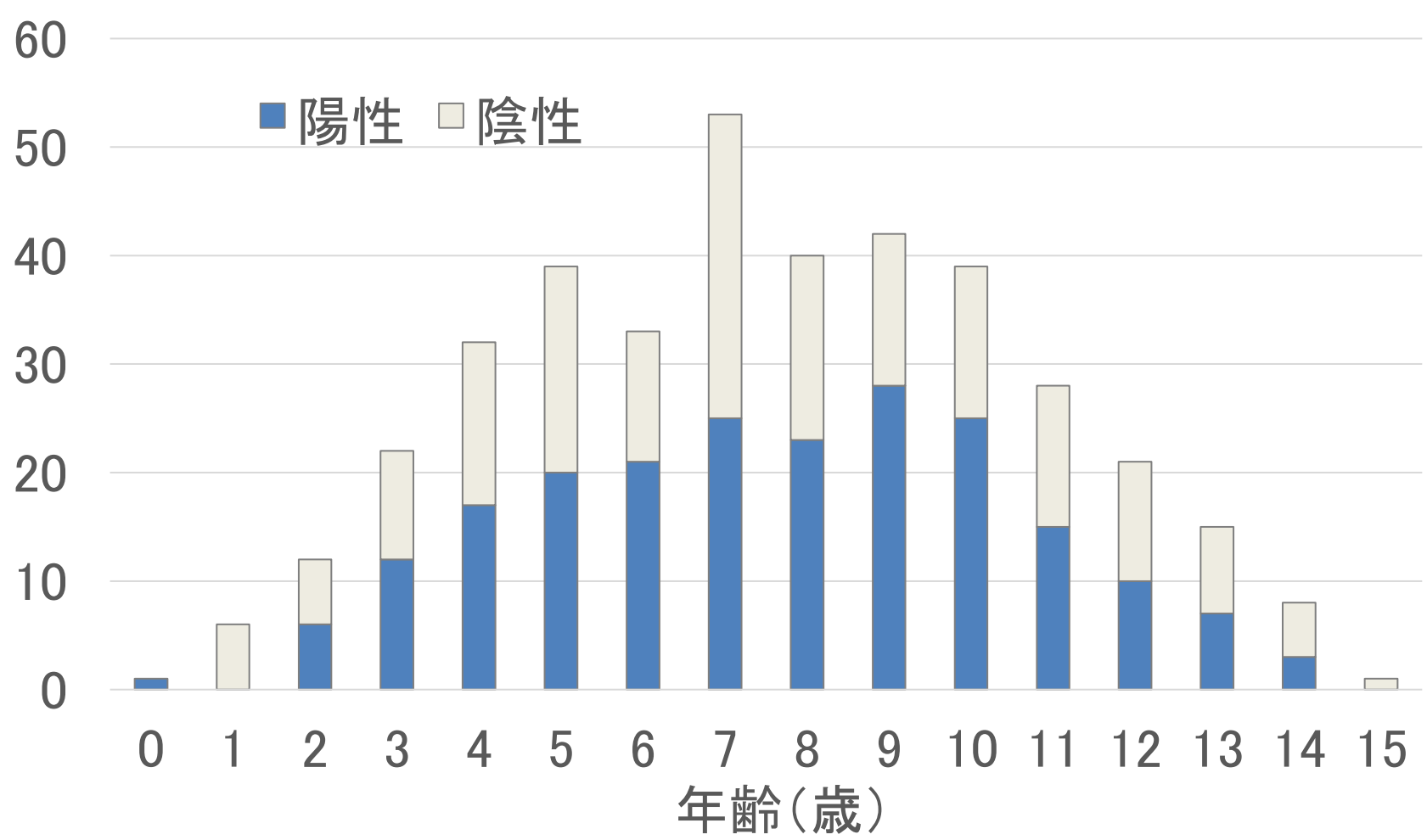
当院一施設で2024年24-37週にマイコプラズマと診断された症例について、症状、抗菌薬治療、経過、マクロライド耐性を調べた。
診断は抗原検査(86%)、PCR検査(13%)で行った。症状は同時期に呼吸器症状のあったマイコプラズマ検査陰性例と比較した。

結果

(1) 2024年マイコプラズマ感染症患者数



(2) 年齢別マイコプラズマ感染症患者数



マイコプラズマ感染症患者 213例
年齢 中央値 8歳, 男/女 113/100

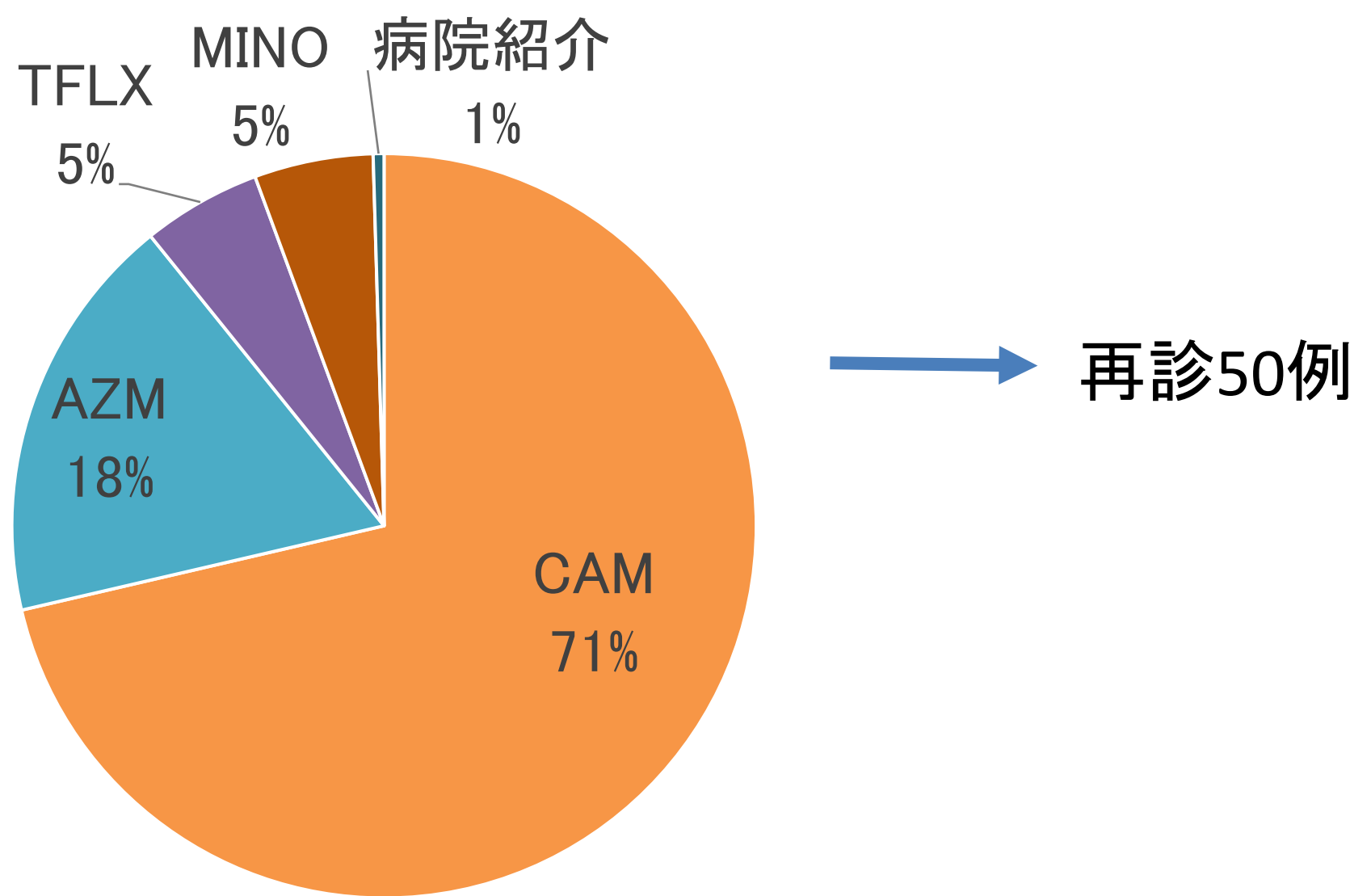
(3) マイコプラズマ感染症の症状

	マイコ陽性例 (213例)	マイコ陰性例 (179例)	p値
年齢(歳)	8(0-14)	7(1-15)	n.s.*
性別 男/女	113/100	100/79	n.s.
発熱	194 (91%)	110 (61%)	<0.001
咳	213 (100%)	179 (100%)	n.s.
喘鳴	11 (5%)	18 (10%)	0.081
鼻水	17 (8%)	58 (32%)	<0.001
咽頭痛	39 (18%)	32 (18%)	n.s.
頭痛	20 (9%)	15 (8%)	n.s.
腹部症状	27 (13%)	15 (8%)	n.s.
関節痛・下肢痛	5 (2%)	0	0.066
発疹	2 (1%)	3 (2%)	n.s.

p値: フィッシャーの正確確率検定、*マン=ホイットニーのU検定

マイコプラズマ陽性例で発熱が多く、鼻症状が少なかった

(4) 診断後の抗菌薬治療



(5) 経過

診断後の治療	再診数	再診理由	理由ごとの再診数	治療の変更				
				変更なし	CAM AZMに変更	TFLXに変更	MINOに変更	病院紹介(うち入院数)
CAM (152例)	31	発熱持続	16			2	6	8(6)
		咳嗽増強・持続	13	12		1		
		下痢・発疹	1				1	
		経口摂取不良	※5					※5(3)
		軽快	1					
AZM (38例)	9	発熱持続	7	2			2	3(2)
		咳嗽増強・持続	2	2				
		下痢・発疹	※1	※1				
		経口摂取不良	※2					※2(1)
TFLX (11例)	6	発熱持続	3	1	2			
		咳嗽増強・持続	3	2				1(1)
		下痢・発疹	0					
		経口摂取不良	0					
MINO (11例)	4	発熱持続	0					
		咳嗽増強・持続	2	2				
		下痢・発疹	1				MINO中止	
		経口摂取不良	0					
		軽快	1					
病院紹介 (1例)								

※重複例

当院治療開始後の抗菌薬変更 14例
他院治療開始後、当院診断時に抗菌薬変更 10例 } (11%)
病院紹介 13例 (うち入院10例) (6%)

(6) 病院紹介例の紹介理由と治療

病院紹介(14例)理由		入院例
発熱持続	12	9
経口摂取不良・内服困難	9	5
SpO2低下	5	5

重複あり

病院紹介後の抗菌薬使用	
CAM	1
AZM	7
MINO	3
CLDM・PSL	1
不明	1

(7) マイコプラズマ変異例

スマートジーン(ミスホメディー)のQプローブ核酸増幅法により検査

PCR検査理由	検査数	陽性数	変異例数
抗原検査陰性	4	2	1
同胞が変異例	5	4	4
CAM無効	12	12	11
AZM無効	3	3	3
TFLX無効	4	3	0
CLDM無効	1	1	0
合計	29	25	19

臨床的にマクロライド無効例では93%が変異例であった。

<全例フォローできている、非再診は軽快したと仮定して>
当院フォロー例の変異 19例 + 病院紹介例でMINOに変更した例 3例
→マクロライド耐性例は 22例 (約10%)
<213例中51例(再診+直入)しかフォローできていないと仮定すると>
マクロライド耐性 43%と推定される。

まとめ

- マイコプラズマ感染症213例を経験した。
- マイコプラズマ感染症は同時期の他の呼吸器感染症に比べ、発熱例が多く、鼻症状が少なかった。
- 診断後は89%がマクロライドで治療開始していた。
- 抗菌薬変更例は11%、病院紹介例は6%あった。
- 外来マイコプラズマ感染症のマクロライド耐性は10-43%と推定された。

第128回日本小児科学会 COI開示

発表者: 高野智子, 高野 真

日本小児科学会の定める利益相反に関する開示事項はありません